

《主な質問・回答について》

	質問内容	回答者	回答
工事遅延に関するもの			
1	工期の遅延について、施工者へのペナルティーを考えているのでしょうか。	区	ペナルティーについては、現在、検討中です。 工事遅延の確定後、実際にどの程度影響があるか確認してからになります。
2	6年生は卒業式しか新校舎を使用することができない。 児童に対する責任をどの様に考えているのでしょうか。	区	区としても、6年生が新校舎を3学期から使用できる前提で工期を設定しました。 今の6年生が卒業式しか新校舎が使えなくなってしまい、大変申し訳なく思っています。 何とか、今の6年生が少しでも新校舎を使用することができないか検討しています。
3	期新築工事スケジュールは変わるが、最終的な工期は変わらず、期解体工事で工期短縮を図るとの説明ですが、スケジュールは大丈夫でしょうか。	区	期解体工事以降の工期については工事監理者、施工者に無理のない工程であることを確認した上で短縮しているので、平成32年の引越しは予定どおりできると考えています。
4	鉄骨製作業者の契約解除とアンカーボルトのズレは別と理解すればよいのですか。	区	そのとおりです。
5	新しい鉄骨製作業者と契約し工事を行っていたら、施工不良によるズレが6月末に判明したということですか。	施工者	そのとおりです。
6	平成30年2月に新しい鉄骨製作業者が決定されているが、期新築工事の工期変更は、その時点ではないと想定していたのでしょうか。	区	鉄骨製作業者の変更は、1.5か月程度の遅延であり、現場の努力により当初の予定どおり期新築工事を完了できる見込みでした。 しかし、今回、アンカーボルトがズレたことによりさらに遅延が判明し、工程を再精査した結果、約3か月の遅延となる事が判明し、工期を変更することとなりました。

鉄骨製作業者の変更にに関するもの			
7	鉄骨製作業者の従業員が大量退職して変更が避けられなかったとの説明ですが、東京オリンピック等で人材の確保が困難となる可能性を想定して鉄骨製造業者を選定しなかったのでしょうか。	区	区は施工者との契約を行いますが、その後施工者が鉄骨製作業者などの下請業者と契約を行います。 当初の鉄骨製作業者は、実績を積んだ大手の業者と聞いています。 施工者が従業員の大量の退職があるか情報を事前に把握することは困難であり、想定しえない事故と考えています。
8	鉄骨製作業者の従業員大量退職を施工者が把握したのはいつでしょうか。	施工者	平成 29 年 12 月末に契約していた鉄骨製作業者の営業担当から大量退職の話を聞きました。 その後、鉄骨製作業者にヒアリングをし、事実関係を確認しました。 鉄骨製作業者選定にあたっては、施工実績を基に間違いないと考え、契約し準備を進めていました。 ところが、従業員への賃金不払いが発生し、主となる従業員がほぼ退職し、業務を全うできないと相談を受け、その後新しい業者を選定することになりました。
9	平成 29 年 12 月末に相談を受けたとのことですが、契約解除を判断したのはいつですか。	施工者	平成 29 年 12 月末から平成 30 年 1 月にかけて判断しました。
10	鉄骨製作業者の大量退職、契約解除について区が報告を受けたのはいつですか。	区	平成 29 年 12 月末から平成 30 年 1 月にかけて報告を受けています。
11	新しい鉄骨製作業者を決めたのは平成 30 年 2 月頃ですか。	施工者	そのとおりです。

アンカーボルトの施工不良に関するもの			
12	アンカーボルトのズレについて、施工者より区が報告を受けたのはいつでしょうか。	区	区が報告を受けたのは6月末の段階です。
13	6月末には状況を把握し、この時期まで検討をしていたのでしょうか。	区	6月の段階で遅れるとの報告を受けた後、建物の構造の安全性の確認や様々な調整を行ったため、時間を要し、ご説明が今の時期になりました。
14	施工者は、アンカーボルトの施工中に随時確認をしないのでしょうか。	区	アンカーボルトは、コンクリート打設前に施工者が位置確認したうえで、コンクリートの打設をしています。 しかし、位置確認後、打設までの間に鉄筋の調整を行った形跡があり、その鉄筋の調整でアンカーボルトのズレが生じたと考えています。
15	アンカーボルトのズレになぜ気づいたのでしょうか。 実際に施工する現場責任者はアンカーボルトの位置についてチェック等はしないのでしょうか。	施工者	工程の節目ごとに随時位置確認を行い、工事を進めていました。 最終的な位置確認はコンクリートの打設・型枠脱型後に行いましたが、その際にズレが生じているのが発覚し、区に報告・協議をしました。
16	アンカーボルトの位置について随時位置確認を行ったとの説明があったが、なぜ重大な誤りを途中で把握できなかったのでしょうか。	区	アンカーボルトのズレは、目視では把握できず、計測しないと判別できません。 計測が可能な鉄骨の建て方作業の準備時に、位置確認を行いました。
17	期新築工事もアンカーボルトの位置がズレる可能性はあるのでしょうか。	区	可能性はゼロではありませんが、再発防止対策としてアンカーボルトの位置の確認後は、コンクリート打設まで一切の修正作業はしないことを全施工者に徹底させます。
		施工者	コンクリート打設の際に、直接打設箇所にコンクリートを打設し、極力鉄筋等に振動、揺れ等を与えず、アンカーボルトに衝撃を与えないような施工を行います。